

東京ドームと 読売巨人軍の取り組み

2023.3.14 スポーツ未来開拓会議

委員 森田 清司

(読売巨人軍顧問、東京ドーム常務取締役)

■東京ドーム 沿革

- 1936 (株)後樂園スタジアム創立
- 1937 後樂園スタジアム（球場）開場
- 1955 後樂園ゆうえんち開場
- 1973 後樂園競輪閉場
- 1988 東京ドーム開場
- 1990 (株)東京ドームに社名変更
- 2000 東京ドームホテル開業
- 2003 La Qua開場（商業、スパ）
- 2021 三井不動産の連結子会社化に伴い上場廃止
- 2022 球場の大規模リニューアル
- 2023 シティの大規模リニューアル

■面積

- 東京ドームシティ 13.3ha
- 東京ドーム（球場） 4.6ha
- ※都市計画公園（後樂園） 22.1ha



**TOKYO
DOME
CITY**

心が動く、心に残る。

■ 立地

都市型総合エンターテインメントタウンの東京ドームシティには、JR・地下鉄の計5路線が乗り入れている。

JR総武線

東京メトロ丸ノ内線

東京メトロ南北線

都営三田線

都営大江戸線

水道橋駅

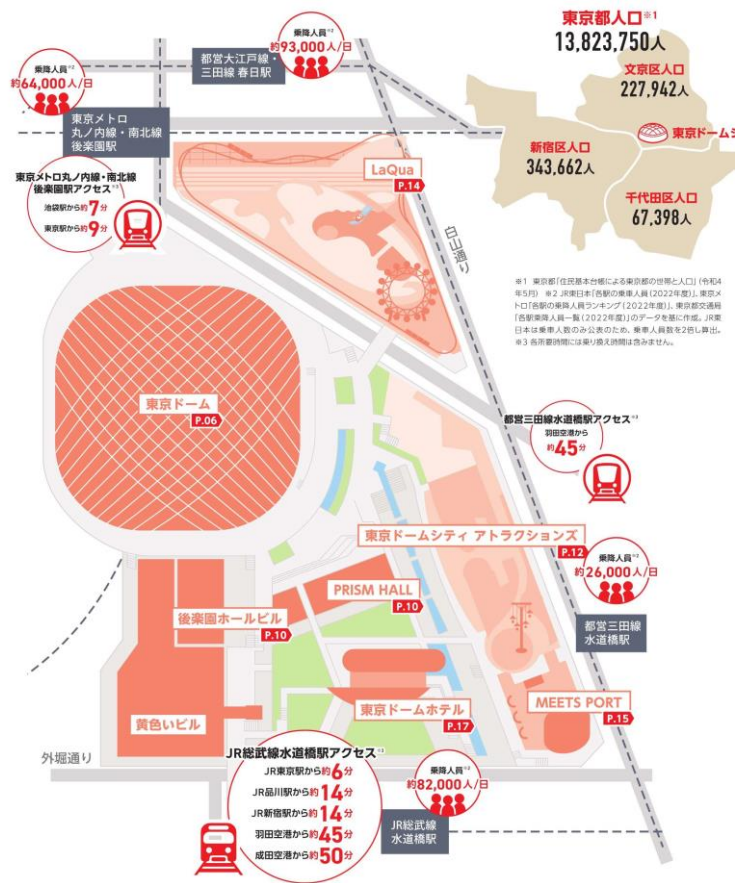
後楽園駅

後楽園駅

水道橋駅

春日駅

※コロナ禍での分散施策として、神保町駅や飯田橋駅などへもお客様を誘導。



■ 営業概況

- コロナ前、シティ全体の年間来場者数は3,000万人規模。
- 2019年度の東京ドームシティ事業の売上高は約690億円。
- 東京ドーム、La Qua（商業、スパ）、アトラクションズ（遊園地）、4つのホール（プリズムホール、後楽園ホール、TDCホール、シアターGロッソ）、ミーツポート、東京ドームホテル（1006室）ーなど各セグメントから構成。
- 2019年度の東京ドーム（球場）の稼働率は約90%（設営日含む）。巨人戦を中心とする野球興行のほか、イベント（音楽、展示会・ビジネスショー、スポーツ各種）など多数開催。
- 2022年度のコロナ前からの回復度合いは80～85%くらい。



■2022年東京ドーム（球場）の大規模改修

東京ドームで過去最大

プロ野球・読売ジャイアンツの本拠地東京ドームにおいて、過去最大規模のリニューアルを実施しました。従来の約4.4倍の面積
新たな観客席を設置しました。ほかに完全キャッシュレス化や顔認証技術の導入などのDX（デジタルトランスフォーメーション）



大迫力のメインビジョンで
スタジアムの躍動感を演出

国内スタジアム最大規模・最高レベルの高精細映像

国内スタジアムで最大規模となるフルカラーLEDメインビジョンが誕生しました。従来と比べて面積は4.4倍に拡大し、画質もメインビジョンとしては国内プロ野球最高レベルとなり、迫力ある高精細映像をお楽しみいただけます。また、最先端のスタジアムソリューションを導入することで、音楽や照明と連動した映像や静止画の演出映像、アニメーションなどの動きを交えた特殊効果など、場内全体で躍動感ある観戦体験を生み出します。

多様なニーズに応える快適な観戦空間で 会場との一体感が高まる

高級感と機能性を融合した新しい観客席

高級感あるボックスシートでくつろげる「THE 3rd PLATINUM BOX」や、リアシートを回転させた半個室のグループ席「MASU CABANA」、3階エリアのVIPコーナー席「プレミアムラウンジ」など、観客席を大規模リニューアル。会場との一体感ある空間で快適に観戦をお楽しみします。



規模のリニューアル

とる国内最大級のメインビジョンの新設や、入場ゲートおよびコンコースのデザイン刷新、多様な観戦スタイルに対応できる
ン」を行い、ジャイアンツの世界を五感でお楽しみいただける、新しい観戦体験ができるスタジアムへと生まれ変わりました。

ジャイアンツの世界へと没入できる エキサイティングな空間

入場ゲートやコンコースのデザインを刷新

各入場ゲートのデザインを一貫し、場内（一部場外）の15箇所にグラフィックデザインを施しました。特に主要ゲートと隣接する5つの壁面には、ジャイアンツの歴史を全面に展開したデジタルを使用し、ファンの共感を呼びデザインに仕上げています。また、観客席に面するまでのコンコースには約260台のデジタルサイネージ、内野222ゲートと外野252ゲートのエントランスには大規模LEDディスプレイを設置し、ジャイアンツコンテントを表現。入場後のお客様が、スムーズにジャイアンツの世界へと没入できる空間へと生まれ変わりました。



場内を完全キャッシュレス化



2022年シーズンより、場内の全売店、客席販売、場内チケットカウンターなどで、「完全キャッシュレス化」を実現しました。身軽で多彩な決済によって、より快適かつスムーズなお買い物を観戦が楽しめます。現金の受け渡し時にお客様の待ち時間が短縮されるほか、接触機会が減ることで感染症対策の強化にもつながります。

顔認証技術の本格導入



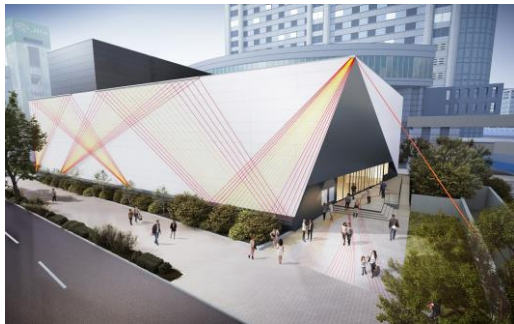
東京ドームで開催するオープン戦・公式戦で、事前登録した顔画像により入場・決済ができるサービス「facethru（フェイスルー）」を開始しました。専用レーンではスムーズに「顔パス」で入場でき、読売ジャイアンツ直営グッズショップや場内の一部飲食店でも手ぶらで支払いができます。Suicaによる入場も合わせた認証サービスとして展開します。

DXの活用による
利便性の向上

■東京ドームと読売巨人軍との連動

- ドーム球場は1988年の開場から35年が経過。チームまわりの諸室や人工芝グラウンドの整備、座席改修や団体観戦ルームの新設など、両社で連携・協議しながら、随時手直しを行っている。2023年はグラウンド上のエキサイトシートを拡張した。
- 両社にとって収入の柱である「シーズンシート」や「広告看板」の営業などは、特に緊密に連携して取り組む。
- プロ野球公式戦日程が内定するのは前年の10月頃。野球関連日程を押さえたうえで、その他イベントの営業を開始する。
- 2022年より巨人戦来場者のシティ他施設への一層の回遊性向上を狙い、「GIANTS SPECIAL OFFER」を実施。チケット半券や巨人軍アプリ内のクーポンを利用することで、シティ各施設での割り引きや特典付与を強化する。 ※シティ全体の回遊性向上のテーマは巨人戦に限らない。

■2023年～、東京ドームシティの大規模リニューアル



吉本興業ホールディングスとの協力による新劇場「IMM THEATER」は24年1月に開業予定



ランドスケープの刷新として、ビジョン・サイネージの整備



©JFA

日本サッカー協会と提携する「サッカー文化創造拠点」は23年秋に開業予定



LaQua（ラクーア）開業 20 周年でのリニューアル

■都市計画公園内の東京ドームシティ



隣接の小石川後楽園と一体となった都市計画公園・公園施設。都知事認可の特許事業として、ドーム球場等を整備してきた。

行政との協議を常に継続しながら、民設民営のドームシティを運営。

- 東京ドームシティ 13.3ha
- 東京ドーム（球場） 4.6ha
- ★都市計画公園（後楽園） 22.1ha

都市計画公園名	後楽園公園（1期）	後楽園公園（2期）
都市計画公園面積	22.1ha	
都市公園面積	70,847.17㎡（小石川後楽園開園面積）	
特許事業面積	84,000㎡	17,930㎡
建築面積(割合)	44,680㎡ (53.2%)	3,548㎡(19.8%)
緑化面積(割合)	11,781㎡ (14.0%) ※	9,106㎡(50.8%)
事業認可日	昭和59（1984）年10月13日	平成8（1996）年11月12日
特許事業区域の配置		

東京都都市整備局資料より

■地域に密着した取り組み

【大地震など災害発生時の安全確保】

- ・「東京都震災対策条例」に基づき、シティ内広場は「緊急避難場所」に指定される。
- ・文京区と「災害時の相互協力に関する協定」を締結し、帰宅困難者対策として、一次滞在施設を提供する。水・食料等の備蓄等も準備。災害発生当日のイベント状況や安全性を考慮して、適切な施設にて受け入れを行う。
- ・シティ全体で、年間2,000回以上の防災・安全訓練を行うとともに、総合防災訓練では、従業員のほか地元の消防や警察の参加を頂きながら、防災への意識を高めている。

【東京ドームワクチン合同接種事業】

2021年8月から22年5月までの計54日間にわたり、新型コロナウイルスワクチンの合同接種を実施。文京区のほか、新宿区、港区、板橋区、中野区、東京都が一つの会場で集団接種を実施する、全国でも例のない取り組みとなった。

読売巨人軍と東京ドームなど3社は、主に巨人戦のナイター開催日の試合前（9時～14時）、2Fコンコースを無償提供して接種会場を設営。医療関係者など関係各機関の協力を取り付けて自治体の接種事業をコンソーシアム形式で支え、1～3回目の接種計約72,000回を実施した。



■脱炭素社会の実現に向けた積極的な環境保全活動

【省エネ関連設備を積極的に導入】

- ・東京ドームアリーナ内全照明のLED化（2016年）。
- ・雨水再利用システム、地域冷暖房システム、微細な電力制御による省エネ効率の高いインバータ設備一等の導入により、省エネ対策に注力する。
- ・社内に「温暖化対策小委員会」を設置し、各エリアでの照明や空調設備の運転時間、設定温度の管理を強化している。



【リサイクルへの積極的な取り組み】

- ・球場内ではゴミ箱をリニューアルし、ゴミの分別回収促進・リサイクル向上に努める。
- ・シティ全域で集められたペットボトルを回収して新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」水平リサイクルを本格始動したほか、ペットボトルキャップから再生品化したゴミ袋を使用。



■ TOKYO UNITE

東京をホームタウンとする14のスポーツチーム・団体が協力しあい、新たな価値を生み出そうと、2022年にスタートしたプロジェクト。

2024年に創設90周年を迎える読売巨人軍は、「TOKYO UNITE」の取り組みに主導的に参画している。

